

ITビジネスモデル委員会報告 2016年度 その5

富士通株式会社

「富士通のIoT・AIへの取組」

講師 インノベーティブIoT事業本部 本部長代理 小林午郎 様

2016. 12. 20(火) 富士通デジタル・トランスフォーメーション・センターにて

プレゼン内容のポイント

1. 今回は富士通様の新しい取組について、本部長代理の小林様からお話を頂いた

～富士通のIoT・AIへの取組～

富士通デジタル・トランスフォーメーション・センター見学の中でデジタル革新に向けたツール、手法を体感する事が出来た。

感想

□古くはユビキタスと言っていたものです。2011頃からIoTという言葉となっていますが歴史のある考えでユビキタスからIoTへの変化は技術的には出来る状況となってきたからだと思います。

IoTの活用についていろいろな活用や提案はありますが今はまだ市場をけん引するサービスにはなっていません。

一部導入や実験的な部分がまだまだでこれはIoT技術の効果が見定められていないと感じます。

当社の場合では保守現場へのスマートフォンやタブレットの投入で映像による現場とのコミュニケーション情報の拡大や現場の保守員との情報共有も出来ますが、これもIoTの活用と言えるかもしれません。

当たり前ですがお客様が環境の変化によるIoT活用の必然性や付加価値を感じる提案が出来るかがキーでありIoTありきでなくお客様の課題を一人称の視点で共感できるかがビジネス拡大のポイントと再認識しました。

□デジタルトランスフォーメーションセンターの活用説明は大変参考になりました。

IoTのPOC検討に入る前の切欠作りの場として有意義であり、お客様にも十分訴求できるものと感心しました。こういった取り組みを推進する事で企業のIoT導入検討が本格化がするので、是非、一度実際に活用させて頂きたいと思いました。

感想(続き)

□これまで培ってきたノウハウや技術を富士通さんなりのアレンジを加え、様々な分野への提案を紹介いただきました。まだ試行錯誤段階の域ではありますが、メーカーとしての取り組みについて大変参考になりました。

デジタル・トランスフォーメーション・センターの紹介

デジタル環境のワークショップルームの紹介。環境やツールに関して文句のつけようはないものでした。

□前半は、『富士通のIoT・AIへの取り組み』と題して、イノベティブIoT事業本部の小林様のお話を伺いました。NECや東芝と同様に、インダストリアルIoTやモビリティ、都市インフラなどでのIoT活用に取り組まれています。他社と比べて、より人間にフォーカスを当ててIoTやAIの利活用に取り組んでいる印象を受けました。

後半は、富士通デジタル・トランスフォーメーション・センターの片山様にセンター内をご紹介いただきました。デジタル革新による課題解決をどのようにしたらよいかを具体的に検討する為に、共創ワークショップを用いてお客様と一緒に考えるという点が非常に興味深かったです。

感想(続き)

□今回の日本事務器(NJC)様への訪問は、従来と異なり、NJC様としての変化への取り組みをみせていただき、とても参考になりました。特に、業務報告よりも、共有に重きを置く考え方と、それを実現するためのソリューションという内容に共感しました。

大きく変化している顧客環境と、利用可能なIT、そして実際のワーキングスペースをつかさどるオフィス什器にいたるまで、まずは自社で徹底して使い倒し、その価値を顧客へ提示してゆこうとする姿勢は見習うべきモデルであると強く感じました。ありがとうございました。

編集後記

今回はデジタル革新をお客様とともに考える共創ワークショップ空間として、2016年5月17日にオープンした「富士通デジタル・トランスフォーメーション・センター」を訪問しました。富士通のワークスタイル変革を最新の活用事例やデモを交えながら体感させていただき、さらに様々なツールを用いてお客様と富士通が未来の働き方を共に考える斬新なワークショップが印象的でした。

下記URLから今回のプレゼン内容がダウンロード出来ます(会員限定)

<https://www.jcssa.or.jp/memberJCSSA/dl2.php>